

原子力友の会 総会（第12回） 議事録（案）

開催日時：2023年11月4日（土）16：00～16：45

方 式：対面とオンラインのハイブリッド

場 所：10号館5階 原子力安全工学科多用室 & Zoom ミーティングルーム

案内配信数：318名（校友会事務局にて管理されている本会のメールアドレス登録のある会員数）

出席者（敬称略）：

[対面] 本多庸郎、川久保政洋、泉正憲、松井隆祥、樽見直樹、松丸望亜、和佐陽斗、吉川将志、渡辺智也、河合益誠、小川裕也、安藤春香、鈴木徹、大鳥靖樹、西山潤、内山孝文、羽倉尚人

[オンライン] 佐藤勇、松浦治明、中村いずみ（20名）

配布資料：【原子力友の会】第12回総会資料(配布用)一式 R00.pdf

大学院生の研究・教育活動・他に対する表彰制度への補助のお願い

議題及び報告

1. 本多会長挨拶

震災後の2011年11月に発足した本会は12年目となった。国内外のエネルギー・電力供給の問題を考えると原子力発電は引き続き重要な役割を果たすと思われるので学科には引き続き人材育成の面で頑張ってもらいたい、とお話を頂いた。

2. 議事録の確認と2022年度以降の主な出来事

前回議事録の確認を行い了承された。2022年4月以降の本学における出来事についての紹介があった。

3. 「原子力友の会賞」について

2022年度は6名に授与したことの紹介があった。また、2023年度の発表会における審査についても例年通り実施することが確認された。第1回からの受賞者と発表タイトルの一覧が紹介された。

4. 会計報告

2022年度の収支報告がなされ、承認された。

5. 活動計画／予算計画および学生・院生への活動支援策について

今後の活動計画および予算についての説明があった。今回、例年の活動に追加して、放射線取扱主任者試験合格者への補助、大学院生を対象としたアクティビティ賞への補助についての提案があり、意見交換を行った。放射線取扱主任者試験については、合格後の講習会参加費用の補助は行わなくてもよいのか、という提案があったが、学生のうちにはまず試験合格を目指してもらうということで講習会費用については対象外とすることとした。また近年の合格者数についても紹介があった。この補助は学部生のみが対象かとの質問があり、これまで院生も補助の対象としてきているので、院生も対象としたいとの回答があった。アクティビティ賞について早稲田側の学生も対象となるのかという質問があり、都市大側の学生のみであることが説明された。いずれの補助に対しても原子力友の会として実施することが承認された。

6. JABEE認定とご助言のお願い

2016年度入学以降の学生は、原子力安全工学科を卒業するとJABEE認定コース終了として技術士1次試験の免除が付与されることの紹介があり、今後もJABEE認定を継続していくにあたり、社会へ送り出す卒業生の「目指す技術者像」について卒業生からご意見をいただきたいという依頼があった。原子力友の会で行う様々なイベントの際に気づき事項を教員にお伝えいただけ

ればとの依頼があった。

7. 会長・副会長の交代について

4期12年会長職を担っていただいた本多会長がこの度退任されることとなった。長年にわたり本会の発展のためにご尽力いただいたことに対し、原子力安全工学科および原子力友の会から感謝状と花束、記念品の贈呈があった。併せて、副会長の山野氏、監査の幅氏からも退任の意向が示されており、新体制へ移行することが紹介された。

新会長には川久保氏、副会長には泉氏、監査には萩原氏にそれぞれ就任いただくこととしたいと事務局より説明があり、承認された。

8. 最近の本学及び原子力安全工学科の状況について

学科主任教授・鈴木徹先生から最近の本学及び学科の状況について紹介があった。入学志願者数が近年順調に伸びていることや主な就職先についても紹介があった。

以上

【講演会の部の紹介】 2023年11月4日（土）16：45～18：45

総会に引き続き、講演会の部として学生、卒業生、教員からそれぞれ1件ずつご講演頂いた。

教員からは、大鳥靖樹先生に「原子力発電所の耐震多様性に関する研究」と題して、これまでに取り組まれてきた研究の一端をご紹介いただいた。多様性という定量的に評価する手法があまり検討されてこなかった概念に対して、定量的な評価を行い、多重化に対して多様化をした方が炉心損傷確率を1桁程度低減できる可能性があることが示されたといった結果の紹介があった。

卒業生からは、2002年3月にエネルギー基礎工学科を卒業され、同年4月に核燃料サイクル開発機構（現 日本原子力研究開発機構）に着任された泉正憲さんにご講演いただいた。原子力機構の紹介、敦賀地区のふげんやもんじゅでの勤務のご経験の紹介、文科省に出向してからのご経験など様々なお話があった。学生に対してのメッセージとして、周りから信頼される人になることが仕事を進める上で非常に重要であること、「頑張るな、でも諦めない」という恩師からの言葉が支えとなっていることを紹介いただいた。

学生からは、閃源会の学部1年生・和佐陽斗さんが「閃源会の活動報告」と題して、今年度の活動実績と今後の計画について紹介した。3月にもんじゅの見学会を企画しており、それに対して原子力友の会からの旅費の補助をお願いしたいという依頼があった。参加者の募集においては公平性を保つために閃源会の会員（学科の学生）全体に対して案内を行い、参加者を確定させることが必要だ、という指摘があり、それを踏まえて、改めて参加募集をかけることとした。補助の金額は参加者が確定してからでないと決まらないことから、最終的な参加人数が確定したところで、会長・副会長・事務局の間で確認の上、決定していくということで、この場では一任することとして決まった。

2022年度に引き続き、現役の学生、卒業生、そして教員による講演を企画した。この10年で学科の教員はほぼ入れ替わり、卒業生にとっては馴染みのある先生がいない状況となっている。現在の教員を紹介する機会としても有効に活用していければと思う。また、卒業生から学生へ向けたメッセージは、現在の社会が求める技術者像を示しているといってもよい。JABEE認定を受け、継続的な教育改善に取り組む学科としても、こうした卒業生の声を聴く機会として、また、学生に聞いてもらう機会として活用していくことが重要ではないかと考えている。

（文責：羽倉）